

2013  
2/4  
No.213

NIKKEI GLOBAL  
日経 **グローバル**  
創造的地域経営のための専門情報誌

**特集** 自治体・議会の大学活用法



**FOCUS**  
減る野菜生産、業務用に再生の芽  
自治体維新  
北海道釧路市長 蝦名大也氏

特集

自治体・議会の大学活用法

ポイントは「本気度」「密度」「満足度」

10

2	北川正恭の直言	44	改めて問われる自治体議会のあり方③ 山梨学院大学教授 今村 都南雄氏
4	News & Inside	46	奮闘 地方議員 埼玉県議会議員 井上 航氏
7	霞が関 底流伏流 (原子力規制委員会) 孤立して良識判断可能か	48	実例で見る自治体財政 多摩住民自治研究所理事長 大和田 一統氏
8	キーパーソン 中小企業基盤整備機構ファンド事業部部长 西内 幸男氏	50	ここが足りない自治体防災 山梨大学地域防災・マネジメント研究センター長 鈴木 猛康氏
22	自治体維新 北海道釧路市長 蝦名 大也氏	52	観光地点検 立教大学観光学部特任教授 清水 慎一氏
25	その後のB級グルメ イタリアン (新潟県新潟市・長岡市)	54	木村俊昭の地域活性化論 温泉街活性化に性急さは禁物 岡山県美作市
26	FOCUS 住民票などコンビニ交付広がる	56	議長に聞く 福島県矢祭町議会議長 菊池 清文氏
30	FOCUS 減る野菜生産、業務用に再生の芽	57	ニュース・ウォッチング
34	REPORT 自治体アンテナショップ 開設ラッシュ続く	62	Book Review
38	REPORT 医学部地域枠の入学、募集の9割超	63	DEBUT 首長 岐阜県羽島市長 松井 聡氏
40	片山善博の自治体自立塾 財政を診る目養い破綻の芽摘め	64	現場から/バックステージ
42	議員提案条例のコツ 地域開発研究所主任研究員 牧瀬 稔氏		

〈表紙の写真〉大学と地域で子どもの「なぜ」を解決

2012年12月22日の昼、雨天にもかかわらず、さいたま市のJR大宮駅近くにある大宮ソニックシティの展示室は小学生らでごったがえしていた。埼玉県が主催する「子ども大学発表・交流会2012」。子ども大学は地域の大学や自治体、企業、NPOが連携し、子どもの「なぜ」に対する答えを見つける中で知的好奇心を満足させる学びの場だ。ドイツのチュービンゲン大学で聞いたのが最初

とされる。

埼玉県では09年に始まり、今では県内36市町の22校が実施。この日の発表・交流会は12年度の各地域の子ども大学の取り組みを披露する締めくくりの場で、20校がブースを出し、前年のほぼ2倍の延べ約4100人が訪れた。参加して3年目になる新座市では小学校4～6年生が地元の十字架学園女子大学と跡見学園女子大学の協力で「なぜ、宇宙



ロケットは飛ぶのだろうか?」「ふるさと学 体験!百人一首」などを学習。ブースでは女子学生も加わり、今の気持ちを思い思いの「五・七・五」で表現、真剣な面持ちで発表していた。

(文=野間 清尚 写真=遠藤 宏)